

23日 木曜

ヨハネ

7:1 その後、イエスはガリラヤを巡り続けられた。ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡ろうとはされなかったからである。

7:2 時に、仮庵の祭りというユダヤ人の祭りが近づいていた。

7:3 そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った。「ここを去ってユダヤに行きなさい。そうすれば、弟子たちもあなたがしている働きを見ることができます。」

7:4 自分で公の場に出ることを願いながら、隠れて事を行う人はいません。このようなことを行うのなら、自分を世に示しなさい。」

7:5 兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。

7:6 そこで、イエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも用意ができています。」

7:7 世はあなたがたを憎むことができないが、わたしのことは憎んでいます。わたしが世について、その行いが悪いことを証しているからです。

7:8 あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りに上って行きません。わたしの時はまだ満ちていないのです。」

7:9 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

7:10 しかし、兄弟たちが祭りに上って行った後で、イエスご自身も、表立ってではなく、いわば内密に上って行かれた。

7:11 ユダヤ人たちは祭りの場で、「あの人はどこにいるのか」と言って、イエスを捜していた。



7:12 群衆はイエスについて、小声でいろいろと話をしていた。ある人たちは「良い人だ」と言い、別の人たちは「違う。群衆を惑わしているのだ」と言っていた。

7:13 しかし、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語る者はだれもいなかった。

前章には「弟子たちのうちの多くの者が離れ去り」とあります。イエス様にとっては、人間的に見れば失意の時であり、慰めや励ましが必要な時でもあります。イエス様の肉の兄弟たちはそのような兄イエスを見て、きっとやさしい気持ちからでしょう…希望につながるようなアドバイスをしました。

イエス様の奇跡のわざを見て、それを多くの人の前で行うなら、兄は世の成功者になれると考えたのです。私たちも同じように、人情からありがたい助言をもらうことがあります。家族であったり、友人であったり、先輩であったりするでしょう。気持ちを考えると否定もできないものです。

しかしここでは「兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。」と書いています。信仰から出ていなかったのです。またイエス様の救いの大使命を単なる個人の成功のレベルでしか捕えていなかったのです。

私たちは個人の成功を求めていけないのではありません。しかしそれよりももっと大きな価値と、それを実現するための使命があるのです。人情はありがたいですが、それに左右されるなら大切なものを失う場合が少なくありません。

イエス様に対する兄弟のアドバイスは、イエス様の命を危険にさらすこととなります。また全人類の救いという絶大なる成功を損なうタイミングだったのです。「わたしの時はまだ来ていません。」と言うとおりです。

人よりも神様のみこころを優先できる人になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

